

「ワンポイント医師奨学金事業講座」 その1 診療応援の義務履行について

奨学金貸付から義務履行開始までの期間は？

市立の各医療機関は、基幹病院ではないため医師としての初期研修や専門研修は、他の基幹病院・専門病院で行う必要があります。

通常の場合、貸付開始から義務履行開始までの期間が、早くても12年から15年を要します。

専任医師として着任前に市立病院で勤務体験

専任医師として着任前に奥州市各医療機関に勤務していただくということで令和元年度誕生したのが「診療応援の義務履行」制度です。

内容『基幹病院や専門病院でのキャリア形成のための専門研修中に、週1回市立病院等に1年間診療応援として勤務した場合は、3か月間義務履行したものとみなす』という制度です。※

※ 上記『みなす』場合の計算の前提として

- 1 1日の勤務時間が7時間45分未満でも7時間45分勤務したものと見なして計算しています。
- 2 1日の勤務時間を更に1.25倍で計算しています。
7時間45分=465分×1.25=581分
- 3 1日診療応援にきた場合、その勤務時間にかかわらず、**581分勤務したものとみなし、実勤務日数にかけて義務履行期間を計算**しています。

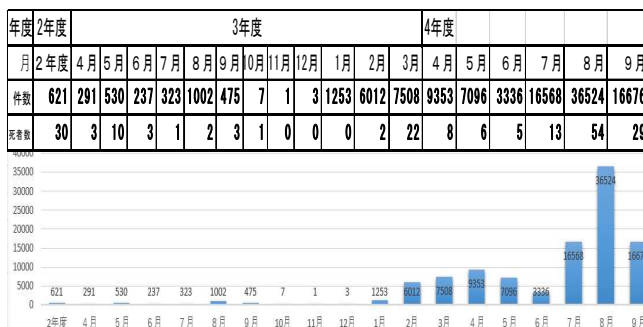
計算例：令和4年度35日、令和5年度47日、令和6年度42日、合計124日診療応援勤務した場合 【参考：1年間は52週です。】

$$124日 \times 581分 \div 120,900分 (1年間の勤務時間) \times 12月 = 7.15月 = 8月 (合計月数の端数は切上げ)$$

- 5 3年間で124日勤務した場合、8か月間義務履行勤務したものとみなすことになります。
- 6 今年度は、4人の先生がこの制度を利用され、市立病院で診療応援勤務されています。

岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

9月28日現在の新規感染者数は、16,676人/月です。8月の感染者急増が落ち着き、1日の感染者も千人を下回る日が多くなりました。累計では107,815人です。死亡者数は29人増えて累計で192人です。



県内年代別感染者の令和3.8月・令和4.4月・8月比較

年代別感染者数 令和3年8月・令和4年4月・8月比較																
第5波 R3.8月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	合計	症状無	比率			
	67	147	228	170	168	110	61	32	14	5	1002	137	14%			
年代別	214人21%		676人67%				112人11%									
第6波 R4.4月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	合計	症状無	比率			
	2013	1708	1146	1548	1351	707	428	207	166	79	9353	488	5%			
年代別	3721人40%		4752人51%				880人9%									
第7波 R4.8月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	合計	症状無	比率			
	5511	4285	4946	5640	5456	3918	3002	1886	1258	622	36524	648	2%			
年代別	9796人27%		19960人55%				6768人19%									

大谷翔平選手の成績ボード (R4.9.28 現在)

打者 打率 273 本塁打 34 打点 93 盗塁 11
投手 勝利 14 敗戦 8 防御率 2.47 奪三振 203
9月3(4日)MLB:ベールブルース以来史上2人目の通算『400奪三振&100本塁打』の快挙を達成した。
9月27(28日)史上初の「トリプル150」を達成：150安打、150投球回以上、150奪三振以上(写真：岩手日報8/11)



『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。

令和4年9月29日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833

※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。



写真左：石畳の見学路を奥へと進むほど、中世の山城のような雰囲気を感じられる

写真右：市指定文化財の「豊田城跡碑」。高さは 2.1 ほどで、安永 3 年（1744）年の建立。近くには文字の解説板があって便利

江刺・胆沢平野を帽で切る一望できる丘陵上に位置する豊田館跡は、みちのくの歴史に輝く平泉の世紀を築いた奥州藤原氏の初代当主、清衡の居館跡と伝えられています。鎌倉幕府の公式記録である『吾妻鏡』に、清衡が江刺郡豊田館を磐井郡平泉に移したことが記されていることから、平泉に都を築く以前は江刺を拠点としていたことがうかがえます。

清衡の政治拠点を示す建物跡などは今のところ発見されていませんが、丘陵を整地した平場の傍らには、江戸時代の石碑（市指定文化財）が残っています。当時の餅田村の住民が、この場所が豊田館跡であることを後世に伝えるために建てたものです。現在の豊田館跡は旧江刺市が整備したものですが、その景観はやはり地元住民の尽力によって守られています。



豊田館跡から半径 1 ㎞以内には、清衡が社殿を修築し、宝庫を建造して武具を奉納したと伝えられる鎮岡神社、清衡の産湯を汲み取ったと伝えられる走湯稻荷神社、清衡の父・経清とその従者を弔うために造られたといわれる五位塚墳丘群などがあります。さらに、中国産の白磁四耳壺や、近年の発掘調査で出土した 12 世紀の埴仏などの考古資料は、この地域一帯が平泉前史と深く関係したことを物語っています。



前九年・後三年の合戦という戦乱の中で数奇な半生を過ごし、争いのない平和な世を希求した藤原清衡。豊田館が建つ丘陵から見下ろす雄大な大地に、清衡は何を感じていたのでしょうか。そして後輩のわたしたちは、何を感じ取るのでしょうか。

写真：埴仏は寺院の壁画や大仏の光背などを飾る仏像。本品は頭部が欠けている。12 世紀の製作とみられるが、この時期の国内には類例がなく、豊田館が居館としてのみならず、特別な信仰の場であったことも考えられる（えさし郷土文化館所蔵）



◇問い合わせ＝えさし郷土文化館（☎0197-31-1600）へ